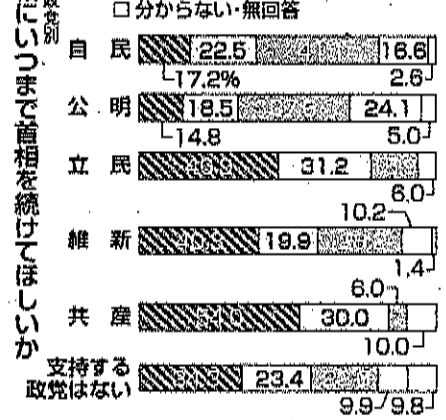
11/28 毎新

「できるだけ早く辞めて」最多30％

首相 辞任ドミノで逆境

共同通信世論調査で、一カ月に三閣僚の「辞任ドミノ」が政権を直撃した。岸田内閣の不支持率はついに過半数に達し、支持率は再び過去最低を更新。岸田文雄首相の判断に対する「後手」批判は強い。秋葉賢也復興相の「政治とカネ」問題もくすぶり、首相は厳しい逆境に陥っている。＝❶面参照

世論調査「後手」批判根強く



「法相と一緒に総務相も交代させるべきだった。タイミングを誤った」。二十七日、首相官邸幹部は世論調査結果を聞くと「政権の危機管理に失敗した」とため息をついた。

首相は東南アジア歴訪直前の十一日、「死刑はんこ」発言の葉梨康弘前法相を更迭した。政治資金問題で野党が辞任要求していた寺田稔前総務相は続投と判断。だが外遊中に状況は悪化し帰国翌日の二十日に一転して更迭する事態となった。

世論調査では、世界平和統一家庭連合（旧統一教会）に関して曖昧な説明を繰り返した山際大志郎前経済再生担当相を含めた三閣僚更迭のタイミングについて「遅過ぎた」との回答が62・4％。自民党支持層でも52・2％に上った。

首相は三閣僚とも本人の説明を見極めようとし、交代時機が遅れた。内閣を支持しないと回答した人のうち、最も大きな理由に「首相に指導力がない」を選んだのは27・6％。「経済政策に期待が持てない」に次ぐ数値で、政権発足以来、最も高くなった。

共産党の小池晃書記局長は取材に「政権の末期症状を示している」とこき下ろす。

「これはまずい」。自民党の閣僚経験者は党の支持率下落に顔をゆがませた。来春には統一地方選を控え、党内では首相が「党の顔」でいいのか、不安が広がりそうだ。

今回の調査で「いつまで首相を続けてほしいか」との質問に「できるだけ早く辞めてほしい」が最多の30・2％。自民支持層では17・2％にとどまるものの、二〇二四年の党総裁選で再選を狙む回答は16・6％しかなく、長期政権への期待が薄らぐ様子がうかがえる。

首相周辺は「今まで積極的な不支持が少ないのが岸田内閣の強みだった。今後は一つ一つ結果を出して挽回していくしかない」と焦りをにじませる。ただ、閣内の秋葉氏は「政治とカネ」のほかに選挙違反の疑惑も指摘され、収束の気配は見えない。公明党の山口那津男代表は「本人の説明が十分とは思えない」と不満を口にした。

立憲民主党の泉健太代表は取材に、首相は秋葉氏を更迭すべきだとした上で「世論の後押しを受け、国会で追及を強めていく」と意気込んだ。